

桜薬会 会報

No. 79



薬学部中庭

October, 2023

目次

目次	2
新会長挨拶	3
前会長挨拶	4
人物往来 押見真和	5
生涯教育講座のご案内	7
研究室だより	8
支部連絡会報告	12
地区支部・職域支部だより	13
桜の木の下で	15
日本大学校友会ニュース	18
薬学部ニュース	19
令和5年度入会記念特別講演会	20
会務報告	21
令和4年度決算・令和5年度予算	23
校友会役員名簿	25
物故者名簿	28
校友会ホームについて	29
会費納入報告	30

★ 表紙・写真 撮影者：薬学部 写真部

日本大学校友会正会員募集中

皆様は日本大学薬学部校友会が、日本大学校友会の下部組織として活動していることにはすでにご存じのことと思います。薬学部校友会は卒業生を正会員に、在校生を学生会員として構成しております。日本大学校友会では卒業生全員に、毎年2月頃、校友会誌「KIZUNA(絆)」を送付し、別途登録して頂いた校友を正会員（会費10,000円）として正会員会誌「桜縁」（年2回発行）をお届けしております。正会員会費の一部は薬学部校友会へ納入した翌年に還付されます。還付金は還付当年度の薬学部校友会年会費としております。ぜひ正会員登録をして頂きたくお願い致します。希望者は事務局までお知らせ下さい。

工学部薬学科・理工学部薬学科卒業生にお願い：

登録・会費納入に際して郵便振替用紙記入の時、「所属する支部・部会」欄に必ず「薬学部校友会」と記入して下さい。無記入ですと本会に還付されませんので、薬学部校友会会費に振り替えることが出来ません。ご注意下さい。

新会長のご挨拶



会長 澤田 康裕 (33期)

理工学部薬学科；1988年卒

世の中を一変させてしまった新型コロナウイルスによる感染症が続く中、校友の皆さまにおかれましては益々のご健勝とご活躍のこととお慶び申し上げます。2023年6月25日の通常総会におきまして、薬学部校友会会長に選任され内倉和雄前会長の後任として任期3年間つとめさせていただきます。

薬学部校友会は、工学部薬学科卒・理工学部薬学科卒と薬学部卒がほぼ半々になってきており、工科系と医療系の2つの顔を持っています。そのような姿も少子化とは反して薬学部の新設校が増える中、『輝く伝統』であると誇りに思われている先輩方も多いと思います。しかしながら、昨今、様々な問題が報道され心を痛めていらっしゃるのではないのでしょうか。

日本大学本部校友会では、理工学部薬学科卒の大谷喜一氏(20期)が会長に就任し、組織改革も進行中ではありますが、内倉前会長は、その改善に大きく尽力されてきましたことをこの場でご報告させていただきます。

さて、第一に取り組むべき課題は、本校友会の組織強化であります。組織強化とは、会員の校友会を通じての活動が活発化することであり、他学部校友会との連携や本部校友会からの支援体制、また薬学部との更なる協力体制を作っていくことでもあります。また校友の皆さまに会員であるメリットを明確にしていくことも必要になります。本校友会は、卒業生による本部正会員と薬学部(桜薬会)正会員と薬学生の準会員の会費により運営されておりますが、会費は、支部活動、学生へのサポート活動、奨学金の一部にも使っております。校友の皆さまには、桜薬会年会費の納付をお願い申し上げます。ご協力とご理解の程よろしく願いいたします。

第二に、校友会はその名の通り、卒業生の交流と友情を深め合う場であり、特に同じエリアで活躍する諸先輩方が互いに磨き合い、助け合いながら活動していくことが目的であります。その主たる場である支部活動を支援していきたいと思っております。これは、内倉前会長からの方針を引き継ぎ、さらに発展させていきます。支部のない県の校友の皆様方には、発起人になっていただき一つずつ増やしていただければと考えています。

第三に、会員の多くが女性であります。女性が活動、活躍しやすい運営企画を提案していきます。任期の3年間でどこまで本会のためにできるかはわかりませんが、全力でやる所存です。校友の皆さまには、ご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

筆末ではありますが、内倉前会長の本会への貢献は多大なものであったことには間違いございません。本当にお疲れ様でした。今後ご指導を賜れば幸いです。ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

退任のご挨拶

前会長 内倉和雄



薬学部校友会（桜薬会）会員の皆様におかれましては、ご健勝でお過ごしのこととご拝察いたします。また、未曾有のコロナ禍の中で医療関係の方々のみならず多方面でのご活躍とのこと大変嬉しく思います。

この度、令和5年3月末を以て会長を辞することになりました。2011年4月に就任して以後4期12年の長き渡り、校友会の運営・活動に関して大きな間違いもなく、無事に務めることが出来たことは、ひとえに皆様方の叱咤激励とご支援の賜物と感謝申し上げます。

桜薬会は皆様ご存知の様に、工学部薬学科、理工学部薬学科、薬学部の卒業生及び大学院修了の方々約1万4千人を正会員とした校友会であります。私は、初代会長から数えて8代目に当たりますが、歴史と実績のある会の会長をお受けした時の身の引き締まる思いを今でも覚えています。諸先輩、特に先代の山内元会長が進められてきた多くの校友会活動を継続し、充実させることから初め、更に前進させること、それと同時に、会員のためになる新事業を計画・進展させたいとの気持ちもあった様に思います。就任当初は、初めてのことでばかりで落ち着いた対応は出来なかったように思いますが、役員の皆様のおかげで、活動を進めることができました。

進めた活動の一部を思い出すままに並べさせていただきます。情報誌である会報は、年2回発行していますが、モノクロ印刷のものでした。次号が楽しみで待ちどうしいと思って頂くためには、掲載内容の充実に加えて、写真の掲載も多用されるためにカラー印刷にしました。印刷経費の増加がありましたが、見た目も華やかになり情報の伝わり易さも向上したと思っています。

正会員や、学生会員のために“役立つ”を念頭に新たな事業をはじめました。2012年から正会員を対象とした生涯教育講座を薬学部と共催で実施することになりました。日々進歩する医療・薬業界に対処するものと期待されています。また、学生会員を対象として新たに校友会奨学金制度を立ち上げました。この奨学金の原資は、正会員からの寄付によるものとしました。この組み立てから、奨学金を介して先輩にお世話になったとの思い、後輩のためになったと実感できる思いを共有することで、新たな絆を育むことが出来る活動になったと思っています。

全国各地にお住まいの方々との交流を深めることも重要と思い、地方支部の活性化を図ってきました。地方支部による懇親会の開催とともに、研修会や勉強会の開催などを積極的に応援いたしました。また、各支部からご推薦いただいた講師による学生への講義を開催しました。卒業生と学生との繋がりを介して絆が持てるようになることに期待しています。

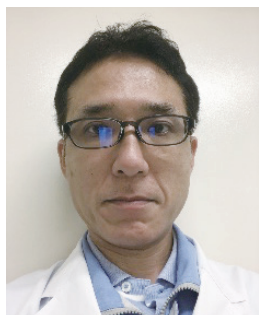
一方、薬学部校友会会長と兼任する形で、日本大学校友会の副会長として活動しました。会員は全学部卒業生を合わせると約120万人の校友会組織です。皆様ご存知のように、前会長によるワンマンで独断的な運営方針が多くの問題点を抱えることになりました。私としては、副会長としての職責を果たせなかったのではないかと、やれることがあったのではないかと等自問自答し残念な気持ちです。日本大学校友会は、現在、大谷喜一会長（理工学部薬学科1975年卒業）の下で抜本的な改革が進められており、新生校友会としての発展を祈念しています。

薬学部校友会会長就任時に思い描いていた事柄や、新たに生じた問題には対処しながら、活動を進めることが出来たと思っています。これは桜薬会の役員、監事、運営委員の方々による適切なお提案、方向性の見極め等に助けられて成し得たものと深く感謝いたします。また、薬学部の諸先生方、職員の皆様からは、活動の場をご提供頂きご支援を賜りましたことも活動の大きな推進力になりました。お礼を申し上げます。

最後になりますが、同じ釜の飯を食った仲間としての絆に基づいた校友会活動が多く展開されています。これからは、社会情勢の変化、各個人の思いにも配慮しつつ活動を進めることの悩ましさや難しさが増すことと思いますが、ご就任された澤田康裕会長の下で、校友会の益々のご発展を祈念して、退任とお礼のご挨拶と致します。

人物往来

41期（薬学部：1996年卒）押見 真和



桜薬会会員の皆様、本学先生方におかれましては、昨今のコロナ禍により生活スタイルを余儀なく変更させられ大変な時期であったと思いますが、そんな中益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。先日、恩師である鈴木豊史先生が学会で名古屋にいらした時にご飯をご一緒させていただき、製薬会社の工場でも薬剤師が必要なんですよという話から、今回の執筆の依頼を受け、先生には学部および大学院時代大変お世話になっており、少しでも恩返しできればと思って引き受けさせていただきました。このような機会を設けていただき大変感謝しています。今回どんなことを書こうかと過去の会報を見ていたらお世話になった先生、先輩等々が登場し、気づくと自分が在籍していた頃の26号まで遡って読んでしまいました。

現在、小職は製薬会社の工場に勤務しています。薬剤師としての働き場所としては、病院、薬局、製薬会社においても研究職やMRが多いかと思えます。今回は、あまり知られていない薬剤師の働き場所があることを知っていただけるとありがたいです。また、高校時代から就職するまでの思い出も懐かしいなと思いながら書かせていただきました。学术论文ではないので、鈴木先生に昔のようにたっぷり赤ペン先生されることもないので気軽に書きたいと思えます。乱文はご容赦いただき、最後までお付き合いいただければ幸いです。

【高校時代】

出身は日大二高からの付属校上がりです。高校時代は3年間水泳部で夏はプール、冬は冬眠ではなく陸上部になりマラソンばかりでした。付属中学もあったことから部自体大所帯で、夏の合宿も校舎に寝泊まりしての厳しい反面楽しい思い出です。やはり部活動の経験は、コミュニケーション・上下関係等の礼儀・チーム協力性などが自然に身に付き、社会に出てチームで仕事をするのが基本の職場にいると、ふとやっぱりやっていた良かったなと思う時が多々あります。いざ3年生になりどこの学部に進もうかと考えた時に特にこれとってなかった、さらに付属生専用の試験結果が出て進学できる学部が限られ、東京木場の下町の大工の息子として生まれたのになぜか薬学部、これが事実です。同学年では女子部も含め7人いました。面白いエピソードがあり、入学前の集団面接の時、同級生の桜薬会でも活躍されている小松崎君が趣味は盆栽です、と面接官の先生も同席した僕らもビックリ、笑いが出るほどだった、彼のおかげで緊張がほぐれて今は感謝です。また、薬学部には長谷川明先生の下、日大二高会があり先輩方と宴会する機会がありました、今もあるのかな。

【大学時代】

まだ薬学部4年生の時代でしたので、午前中講義午後から実習と結構詰め込まれていた気がします。大学入学後の友達の影響で、小学生時代にキャッチボールしたことがあるくらいのレベルでしたが野球部に入部し、試合にも出場させてもらいました、というより人数がギリギリで出場せざるを得ない状況でした。2年生時、単位は取れてもC判定では就職する時大変と聞いて、自分の成績表を見てやばいと思いまじめに授業を受けるようになりました。もちろん専門の講義は興味もある分、前の方に座るようになった気がします。4年生時、研究室を選択する段階になって、数学が好きだったのとなぜか薬物動態に興味をもち、青木正忠先生の臨床薬剤学研究室に所属し、当時講義の途中で出席表を配布しに来る白衣を着た大学院生や先生に憧れ、そんなミーハーな気持ちを持ちつつ、研究をさせてもらうことになりました。いきなり英語の文献を読んで、文献と同じ手法ができるようになることが目標、と言われつつもそれがラットの麻酔から左右大腿部の血管に投与用と採取用のカニューレーション、不器用な私には大変でした。ラットに麻酔かけるのに何度も噛まれて保健室に駆け込んだのを覚えています。一方で、臨床薬剤師というとても魅力的、まさに薬剤師としてのやりがいではと思った時期もありました。病院

実習にも日大の大先輩となる順天堂大学浦安病院の小清水敏昌先生の下で研修をさせていただきました。しかし、当時、病院薬剤師は狭き門、研修生制度で病院に所属して、あわよくばその病院に残ることができるなんていう時代でした。薬剤師国家試験も4科目240問に変更された年であり、初年度ということもあり難易度が低かったのもあったのか合格できてラッキーでした。というのは、卒業試験2回連続合格なら受験資格が与えられる、なんと自分はお情けの3回目試験でやっと合格し何とか受験資格を得られた身だったので。あの3回目の試験の時の緊張感はすごかったです、さすがに教室も静かでみんな真剣でおしゃべりなんてする余裕もなかったですね。

【大学院時代】

就職したくなかったのかもしれませんが、やはり研究が面白くて続けたいと思い、花野学先生の下で薬物動態の研究をさせていただきました。また、当時九川文彦先生が国際学会での発表に参加される際、大学院同級生の新江君と2人でサンフランシスコについて行き、学会会場にも参加しましたが、ほとんど自転車で観光していたのもいい思い出です。大学院生は、自分の好きなことだけを研究できる楽しさ、一方では限られた時間で思ったように結果が得られないつらさ、でも今でも一番充実していた時だったなと思います。大学院2年生、就職するなら今しかない、当時はやはり研究職に就きたかったのが本音でしたが、就職試験も1社だけ受験し落ち、こんな職業もあるよと花野先生から紹介いただいた現在の会社に就職しました。

【就職】

1998年4月日本メジフィジックス株式会社に入社しました。主に放射性医薬品を製造販売している会社です。当社の放射線医薬品は、SPECT診断薬を千葉と兵庫の工場、PET診断薬は全国11か所のPETラボにて製造しています。一般的な製薬会社との違いとしては、1つはサイクロトロンという粒子加速器によるラジオアイソトープ(RI)の製造、もう一つは、RIの半減期が短いため、製品を直接病院に納品します。この特殊な医薬品であってもGMP(医薬品の製造管理および品質管理に関する基準)に適合し、放射線障害防止法に準拠した管理は必須であり、薬剤師、放射線取扱主任者、電気主任者技術者などさまざまな資格を取得した人が必要となります。

小職は、現在PETラボの1か所に所属し、医薬品製造管理者として働いています。PETラボは15人程度の社員で稼働しています。医薬品を製造するには、製造所ごとに医薬品製造業許可が必要です。この製造所には、薬剤師である医薬品製造管理者が必要になります。さらに製造所から直接病院に納品するためには卸売販売業許可も必要であり、薬剤師である営業所管理者も必要となります。こんな小規模の製造所においても薬剤師が最低でも2名必要なのです。あまり学生時代には知られていないのが現状ではと思います記載させてもらいました。

さて、また戻りまして小職の経歴ですが、入社後最初の所属先は千葉工場品質管理課でした。工場内で製造された医薬品を承認書で決められた試験を実施する部署でした。HPLCやGCのようなメジャーな機器の他に放射能測定に使用する特殊な機器を用いての試験項目がたくさんあります。また、診断薬らしい試験としてラットを使用しての体内分布試験も経験しました。当時先輩がラットのケージをわざと蹴飛ばしてラットを興奮した状態にし、捕まえて麻酔かけろと試されたものでした。この後、工場の製造部門に異動して注射剤製造を経験し、2011年からPETラボに異動し、現在PETラボも3ラボ目になります。途中、5年前には富山県に新しい11ラボ目の建築が始まり、ラボの設計から初出荷までとてもタフでしたが、面白い経験をさせてもらいました。鈴木先生も富山県で実施された学会のついでで学生を連れて見学に来てくれました。法や局方改訂に伴う対応など薬学で学んだ知識を活かせる仕事もありますが、放射線管理、サイクロトロンでの放射線量取高や合成収率向上検討、各種製造装置の設計など一般の製薬会社では味わえない多種多様な業務を経験することができるため飽きないです。後輩の皆さんお薦めですよ！一緒に働きませんか！と少し会社のアピールをさせていただきました。

まとまりのない体験談になってしまいましたが、このような執筆の機会をいただきありがとうございました。桜薬会におきましては、益々のご活躍を期待するとともに小職も微力ながら恩返ししていきたいと思っております。

生涯教育講座のご案内 (令和5年度)

令和5年度後期に下記の生涯教育講座を開催します。講座内容,お申し込みはホームページをご覧ください。
<http://www.pha.nihon-u.ac.jp/longlife-learning.html/> (この頁の右下のQRコードをご利用ください)

【申し込み方法について】

外部サイト「STORES 予約」または「アスyak LIFE 研修」のどちらかにてご予約ください。初めてご利用になる際はID登録が必要となります。受講料は予約時にクレジットカード決済させていただきます。開催日直前のご予約やクレジットカード決済ができない場合は、お電話にてお問い合わせください。

【最近のトピック】

生涯研修認定単位：1回1単位 受講料：1,000円 開催方法：オンライン研修 (Zoom 配信)

令和5年11月8日(水) 19時30分～21時00分	第195回	演題：インフルエンザ・感染性胃腸炎 東京ベイ・浦安市川医療センター 薬剤室責任者 栞秀樹 先生
令和6年2月21日(水) 19時30分～21時00分	第196回	演題：未定 東京都多摩立川保健所生活環境安全課 薬事指導担当課長代理 外尾英隆 先生

【ファーマシューティカルケアの最前線】

生涯研修認定単位：1回2単位 受講料：2,000円 開催方法：オンライン研修 (Zoom 配信)

令和5年11月26日(日) 13時00分～16時10分 (疾患別テーマ) 小児医療	①小児医療について 日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部 薬剤師 坂田和佳子 先生 ②小児医療について 日本大学医学部小児科学系小児科学分野 主任教授 森岡一朗 先生
令和6年2月18日(日) 13時00分～16時10分 (疾患別テーマ) 感染症	①感染症の危機管理(仮題) 大東文化大学 スポーツ・健康科学部 健康科学科 教授 中島一敏 先生 ②感染症について 日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部 薬剤師 松本千秋 先生

問い合わせ先：日本大学薬学部薬剤師教育センター

TEL：047-465-3895

E-mail: pha.ykc-info@nihon-u.ac.jp

【QRコード】



研究室だより

薬剤疫学研究室（1号館3階135）

桜薬会会員の皆様方におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。薬剤疫学研究室（本年4月に病院薬学研究室から名称が変更になりました）の近況についてお知らせいたします。本研究室には、教員1名（大場延浩）に加え、4～6年生の計22名の卒業研究生が在籍しております。さらに、社会人を含む大学院生3名と上席研究員1名、薬歴システムに関する研究をサポートして頂いている薬剤師の先生1名の計5名が在籍しております。

4年生は6月に配属が決まり、後期からの卒業研究、OSCE、年明けのCBTに向けてスタートしたところです。5年生は、実務実習を行っている学生と大学で研究を継続する学生がおります。4年次からスタートした卒業研究の成果を今年の日本医療薬学会年会にて発表する予定で、その準備に奮闘しております。6年生は卒業試験と国家試験の突破に向けて猛進しています。来年には、薬剤疫学研究室の卒業生となりますが、病薬の先輩方、引き続き、よろしく願いいたします。

本研究室では、レセプトデータベースや調剤薬局の薬歴を活用して医薬品の市販後安全性に関する薬剤疫学研究を行っております。ご興味のある方がおられましたら、遠慮なく大場までご連絡ください。

毎年恒例となっていた研究室の同窓会は、毎回、卒業生のご活躍の様子を感じることが出来る機会なのですが、コロナ禍以後、しばし中断しています。とても残念ではありますが、また皆さんと元気に再会できることを楽しみにしております。

最後になりましたが、会員皆様のご健康とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（大場 延浩 記）

薬剤師教育センター（6号館3階637）

令和5年度の薬剤師教育センターは、これからの医療と薬物治療を担う薬剤師の育成をモットーに、感染制御、セルフメディケーション、薬剤師の職能の3つをキーワードに、研究を進めて参ります。感染症の予防と治療に用いる薬について、医療機関とコミュニケーションをとりながら臨床で生じる疑問への答えを探るべく効果的で安全な使用をするための研究、また抗菌薬が効きにくい感染症の拡散を抑えることができるアイデアを提案できるような研究を行います。また、これからの薬剤師が「地域医療の担い手」として、また「地域包括ケアシステム」の一員として、地域完結型の医療・介護の体制を整備して「健康長寿」を実現するために在宅医療やセルフメディケーション推進への関わりに貢献できるような研究、さらには利用可能な医療におけるリアルワールドデータの解析やその手法を学び、医療の中で薬物治療に必要な知識と姿勢を備えた薬剤師になるための研究を行い、このような領域での医療人として必要とされる知識を携えて卒業できるような教育に取り組む所存です。

これまでを振り返り、これからの見据えた薬剤師教育を提供できるように教員が同じベクトルで研究と教育に務めていきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

（西 圭史 記）

健康衛生学研究室（3号館2階324）

社会的には落ち着いてきたコロナ禍もウイルスそのものが大きく変わったわけではなく、医療に携わる皆様方におかれましてはまだまだ緊張の時間が続いていらっしゃると思います。

研究室では13期生9名が卒業研究を終え、そのうち6名が最後の総まとめとして日本薬学会関東支部大会において発表を行いました。この13期生9名はお互いに切磋琢磨し、夜遅くまで研究や勉強に取り組んできました。そして卒研発表会の打ち上げの場では、全員が3月25日の卒業式を笑って迎えることを誓ってくれました。20年後の姿が楽しみな面々です。

そして14期生（5年生）と15期生（4年生）ですが、まだまだ未熟ですが、今後の研究室を作っていく大切なメンバーです。実務実習や就職などでお世話になる事もあるかと思いますが、その際にはよろしく願いいたします。

教員に関しては、榛葉は、昨年、韓国薬学会にご招待いただき済州島（韓国）で講演を行いました。非常に名誉なことで貴重な経験をさせていただきました。和田先生は、研究だけではなく教育面の責務も増えており、フル回転の毎日ですが元気で変わりはありません。大学院生も実験、学会発表に頑張っています。

皆様も健康に気をつけて、そしてうちの研究室の卒業生らしく柔軟な考え方と広い視野を持って、真摯に、勤勉にそしてチャレンジすることを忘れることなく過ごして、それぞれの場所で活躍してください。次にお会いできるのを楽しみにしています。

研究室の日々の様子はX（旧 Twitter）で紹介しています。日本大学薬学部健康衛生学研究室で検索してみてください。

（榛葉 繁紀 記）



薬品分析学研究室（3号館3階331）

桜葉会の皆様如何お過ごしでしょうか。3年に及ぶコロナ禍を超えて、ようやく元の生活が戻ってきました。現在、当研究室の教員（私（四宮）、張替、在間）と卒業研究生も日々研究に勤しんでいます。

昨年9月には、日本薬学会物理系薬学部会主催の第34回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS2022）が本学を会場にして開催され、当研究室学生が「星野賞」（審査により同シンポジウムで優秀な発表を行った若手研究者に授与される）の荣誉に輝きました。コロナ禍も冷めやらぬ中、対面での実施でしたが、多くの参加者が来学され、学生諸君の献身的な尽力もあって、伝統ある学会を盛会裏に終えることができました。その後、当時の5年生は、今年6月に卒論発表会で研究成果を発表しました（写真）。卒業論文も完成し、現在は総合講義試験、国試合格に向けて日夜勉学に奮闘しています。

私事で恐縮ですが、今年度一杯で私は定年退職する予定です。平成元年4月に着任して以来、梶澤洋三教授（当時）の命を受けて35年間ひたすら「向流クロマトグラフィーに関する研究」に携わり、その間、米国国立衛生研究所（NIH）への留学、米、英、独、中国での研究発表などを経験しました。本学でしかできない研究を海外に負けないレベルで行うことができたと自負しています。ご協力いただいた本学関係者、当研究室卒業生の皆様はこの場をお借りして心より感謝を申し上げますと共に薬学部の一層の発展を祈念しております。

（四宮 一総 記）



臨床薬物動態学研究室（3号館3階345）

臨床薬物動態学研究室（〔前〕臨床薬剤学研究室）は、1989年の薬学部新設の際に発足し、2005年3月まで青木正忠教授、その後2023年3月まで松本宜明教授が主宰されました。私は2023年4月に本研究室教授を拝命いたしました。私は本学臨床薬剤学研究室の卒業生（1997年）です。青木教授、松本教授から出身研究室を引き継いだことを大変光栄に感じております。本研究室は教授の辻泰弘、准教授の青山隆彦、専任講師の宮本葵の3名の教員が在籍しています。令和5年度は6年生13名、5年生15名、4年生13名の学部生が在籍しています。新型コロナウイルスの影響で卒業研究を実施するには大変厳しい状況ではありましたが、6年生全員が無事に研究成果を発表し卒業論文を提出することができました。短い研究時間を有効に利用し、卒業研究に対して真摯に取り組む姿勢は素晴らしいものでした。彼ら13名の臨床現場での活躍に大きな期待を抱いています。私は「研究者は薬剤師でなくてもよいが、薬剤師は研究者でなければならない」と考えています。目の前の患者の容態推移に潜む問題点を察知して、その解決策を懸命に模索し、最適な薬物療法を提供する研究および教育活動に注力しています。本研究室では、高い研究水準を維持するだけでなく、次の世代を担う研究者の育成にも注力しています。現在は、急速に拡大している数値情報空間に目を向け、患者を対象とする新たな臨床薬理学および臨床薬物動態学研究に日々挑戦しています。新型コロナウイルスの影響も少しずつ落ち着いてきました。研究室内のイベントも再開し、同窓生との親睦を深めていければと願っております。

（辻 泰弘 記）



臨床薬物動態学研究室6年生（令和5年度）の集合写真

支部連絡会報告

令和5年6月25日（日）に校友会総会に先立って、正午から薬学部831教室で支部連絡会が開催されました。支部連絡会は今年度が4回目の開催になりました。運営委員会から内倉会長をはじめ19名および5支部の会員の方が出席されました。

内倉会長より、支部会の活性化のために情報共有を行うことを目的に支部連絡会を開催したこと、本部校友会についての報告がありました。

その後、各支部から以下のような現状報告がありました。

- 山形県支部：校友会総会（オール日大）が活発に行われている。今年度は、法学部、経済学部、歯学部の総会に出席した。8月に校友会総会（オール日大）を行う予定である。
- 千葉県支部：隔年で支部会を開催している。支部会に向けてどのように進めていくか（幹事の若返りを含め）課題である。
- 東京支部：基本的に年1回の研修会を行なっている。本年度は6月29日に対面形式で開催する予定である。講師は日本大学医学部附属板橋病院の岩淵聡先生が担当する。また、研修会終了後、情報交換会を開催する予定である。
- 新潟県支部：薬学部出身の方が非常に少ないため、1人でも多くの方に校友会総会（オール日大）に参加していただきたい。校友会総会（オール日大）は3年に1度開催している。今年度は校友会総会（オール日大）を開催予定である。総会への参加人数を増やすために、林真理子理事長に参加依頼をしたが実現しなかった。参加者を増やすために、良い方法がないか考えている。
- 桜神会：6月22日に対面形式で研修会を開催した。校友が大学に訪問する機会がないので、桜薬祭でのイベントである「母校を訪ねる日」等を利用して、大学での研修会の開催を考えている。

続いて、業界研究セミナーについて協議が行われ、令和5年度以降の開催については検討することになりました。最後に、澤田新会長より、新たに埼玉県支部を立ち上げること、支部会の活動を活発に行い校友との交流を深めていきたい等の挨拶がありました。さらなる支部会活動の活性化に向け、校友の皆さまにもお知恵を拝借しながら良い方向に進めばと思います。

会合予告

桜薬会千葉県支部総会のお知らせ

日時	令和6年3月9日（土）14：00～
会場	日本大学薬学部（東葉高速線 船橋日大前下車 徒歩7分）
内容	1. 支部総会 14：00～ 2. 特別講演 14：30～15：30 演題 仮称「明治のころ薬学の廃止を撤回させた人物のはなし」 講師 日本薬史学会理事 小清水 敏昌先生（12期） 3. 懇親会 15：30～

講演内容につきましては、薬学部校友会ホームページにて掲載致します。

◆事務局 E-mail : y_hjwr206@ybb.ne.jp

地区支部・職域支部だより

第49回桜神会

令和5年6月22日(木)、崎陽軒本店 会議室において恒例の第49回桜神会が開催されました。当会は、神奈川県内の医療機関に勤務する病院薬剤部(局・科)長を中心に組織され、更に調剤薬局に勤務する薬局長、製薬会社の医薬品情報担当者(MR)と様々な職種の方に参加していただいております。今回は約3年ぶりとなる対面での開催となりました。感染対策に留意し、当日は予想をはるかに超える総勢36名の先生方にご参加いただきました。初参加の先生も多く、新たに8名の先生方が加わっております。会の冒頭の桜神会会長挨拶では、赤瀬朋秀先生(日本経済大学 経営学部・大学院 教授)より今回お集まりいただいたことへの感謝の言葉が述べられました。

校友会からは内倉和雄先生にお越しいただき、大学の近況など最新の話題をご提供いただきました。また、来賓挨拶では澤田康裕先生(ウエルシア薬局株式会社)からもお言葉をいただいております。

桜神会に先立ち開催された学術講演会では、赤瀬朋秀先生より「緊急動議 医療用漢方製剤を取り巻く環境と課題」という演題で、漢方に関する保険診療をめぐる動きなど、最新の話題をご提供いただきました。不妊症や鉄欠乏性貧血など各種疾患に対し、医療経済学の視点から漢方の有用性についてお話しいただいております。具体的なデータをご提示いただいたことで、より理解が深まりました。

最後に、野田正道先生(昭和52年卒)と牛腸裕介先生(平成12年卒)のご逝去のお知らせを受けました。野田先生は本会発足当初から会の発展に寄与され、現在への筋道を創っていただいた先生です。お二人の先生のご冥福をお祈りし、参加者全員で1分間の黙祷を捧げております。

是非、神奈川県在勤、在住の先生方には今後も積極的なご参加をお願いいたしまして、第49回桜神会のご報告とさせていただきます。

(岡添 進 記)

桜神会に関するお問合せは

桜神会 会長 赤瀬 朋秀(日本経済大学 経営学部・大学院 教授 t-akase@tk.jue.ac.jp) まで



東京支部（東桜会）研修会開催報告

第52回研修会は令和5年6月29日に桜門会館にて開催され18名が参加しました。約3年半ぶりの対面による開催となりました。

理工学部薬学科出身者である大谷喜一氏が日本大学校友会会長に就任したことで、薬学部校友会会長の交代についてご報告させていただき、内倉和雄前会長、澤田康裕新会長のご臨席を賜りご挨拶を頂戴しました。

今回の研修テーマは「感染対策に対する薬剤師の関わり」として、日本大学医学部附属板橋病院薬剤部の岩淵聡先生を講師にお招きしました。

板橋病院ではCOVID-19診療チームが発足し、発熱外来やCOVID-19病棟が開設されるなか、薬剤師は感染予防対策室専従として配属され、治療薬のフローチャート作成や情報提供、近隣の薬局との連携フロー作成、ワクチン接種、スタッフへの手指衛生手技などの教育に携わってきたとの報告がありました。

特に、陽性者が発生した場合のルールについてまとめたポケットマニュアルを作成し、初動の遅れを防ぐことに活用したり、経時的に下降する手指衛生遵守率については、院内感染の発生率の推移をデータとして目に見える形にして情報提供することでスタッフのモチベーションの維持向上につながられたという貴重な情報を得ることができました。

正しいことを押し付けるのではなく、実施して良かったと思えるようにすることが多職種の相互理解を深めるうえで大切であること、そして抗菌薬だけが薬剤師の関わりではないという力強いメッセージが心に残りました。

東桜会は来年2月29日に第53回目の研修会と総会の開催を予定しております。後日薬学部校友会のホームページでご案内致します。どうぞ奮ってご参加ください。

(41期卒 小松崎康文 記)

日本大学松戸歯学部付属病院

komatsuzaki.yasufumi@nihon-u.ac.jp



桜の木の下で

有吉歌子先生を偲ぶ会と四国西条への墓参の旅

令和5年4月28日、オンラインにて「有吉先生を偲ぶ会」を開催しました。小池先生、染谷（24期）、安西夫妻（29期）、山中（片桐；29期）、中村（直）（29期）（以上敬称略）、筆者の7名が参加しました。思い出話の最中にzoomの無料タイムアウトが来てしまいましたが、年一度の有吉先生を思う晩春恒例の行事でした。（筆者は長年白井市で有吉先生のご近所で、晩年迄交流があった関係でこの偲ぶ会に入れて頂いております。）

遡る昨年秋には、先生の故郷・愛媛県西条市に小川真理子先生、卒業生3名と私で有吉先生のお墓参りに四国詣でをしました。ご生家のある西条市内各地とご墓所を巡ったのち、先生のご実家に上げて頂きました。そこでは歌子先生の少女時代を偲ばせるお雛様に迎えられ、御祖父様から先生までの三代の勲記額、木村雄四郎元薬学科主任教授の揮毫などを拝見しました。御当主の甥御様からはご自身が会社の経営陣になるまでは白井を訪問するなど先生に追い返された話もお聞きましたが、100歳の最期まで叔母様のお世話に心を砕かれたことを知りました。

（有吉歌子先生を偲ぶ会 HP 参照 <https://lilasariyoshi.jimdofree.com/>）



そのうちに思い出は、呉・元日大総長が何としても一人入れたいとの先見の明から人選された、薬学科パイオニア女性教授のお姿に戻ってゆきました。昭和48年頃理工学部二号館の生化学実習のできごと。有吉先生：「Kさん、日本では男性の方が女性より偉いのよ。あなた、シッカリなさい!!」（下線部西条アクセント）。



この時、K氏と同期の私は実習を抜け出した彼に、「キミ、また雀荘でしょう。いないときに出席取ったわよ」などと悪戯していたのでした。この一喝こそが、教員となった氏の後の内地留学先東大での奮起につながったと確信します。若き日の先生が、遠きパリのライラックの花影で憂いに悩んだ日もあったというお話をご自身から伺ったこともあります。教育と学問一筋に生きたあの堂々たるお姿は、四国山地にそびえる峰の如くであったとしみじみ思います。

来年のご命日4月28日（日）、恒例の有吉先生を偲ぶ会をお茶の水にてリアルで開催する事になりました。生化学卒業生の皆様、HPをご確認の上是非ご参加下さい。

（20期薬物学、元薬物学教室助手、元生化学研究室教授草間國子 記）

第12期生同期会報告

昭和42年(1967)卒業の私たち第12期の有志は、令和5年6月6日(火)午前11時半から薄曇りの天気の中同期会を開催しました。場所はいつも使っている山の上ホテル地下の中華料理店(新北京)。安価でサービスの良いランチタイムを利用して集まりました。私たちは卒業後、時々開催して交流を深めていましたが、平成29年(2017)5月に卒業50周年記念の同期会(32名出席)を開いたところで、区切りとして一応終わりにしました。しかしながら、有志だけでもいいから会合を持ちたいとの声が多かったため細々と開催しています。近年はコロナ禍もあったため感染のことを考えて主に東京近郊の同期生に声をかけ、今日まで集まりをしていました。今回、予定では12名ほどが参加することでしたが、体調が悪く出席できない連絡が当日近くにあったため、10名で開催となりました。集合場所の山の上ホテルのロビーでは、もう昔話に花が咲いていて楽しそう。予約した小さな個室で会が始まりました。近況報告をしてもらったので、それらを少し紹介します。

都心の住まいが区画整理になるので、思い切って郊外の老人ホームに移ったがケアしてくれるのでとても満足している。展覧会(現展)のため絵を描き毎年出品しており80歳までは必ずやりたい。この春に高校の同窓会を60年振りに開いたが出席した人の顔を見てほとんどの名前を思い出すことができ、まだボケていないことが分かり満足した。定年で製薬会社を辞めてから病院にパート勤務を始めたが調剤や注射薬の管理などで大変だけど頭を使っている。毎朝お天気だと必ず近くの公園を散歩し日々の風景を見ながら健康管理に務めている。自分一人になり老人ホームに入所したがとてもサービスがよく助かっており明日はカラオケ大会があるので楽しみだ。自宅の庭でバラなどのガーデニングをやったり近くの畑で野菜などを栽培しながら楽しく過ごしている。福島の友人たちを東京に案内して初めて江ノ電に乗って鎌倉・江の島を回り自分でも楽しかった。などなどの報告があり、皆さんそれぞれの今の人生を語ったように思われました。ここの会場は午後3時までは使えるので、時間一杯まで学生時代の話で盛り上がりました。時間になり店を出てお茶の水駅へと歩き出しましたが、誰となくもう少しお茶でも飲みながら話をしようと言い出しので、近くのベーカリー店の2階で8名による二次会。しゃべり足りなかったのか、ここでも大きな声で話の続きをしていました。誰かが言っていました、こうして皆さんたちと会って話をすると近況などを知ると元気が出てくる。なので、また会いたいなど。それが、同窓会の良いところだなどしみじみ感じた一日でした。

出席者は、薬物(小林国喜 津路典子 冨塚典子 長谷川光男 増渕美子 森ひで子)、生薬(齋藤芳久)、薬化学(原田隆子 渡辺泰子)、分析(小清水敏昌)の10名。

なお、来年も集まることになり、来年6月第1週の火曜日に行いスタート時間や会場は今回と同じにしました。もし、遠方の方々に参加希望があれば、幹事原田隆子さんにご連絡ください。

(小清水敏昌 記)



藤井まき子先生を囲む会の報告

令和5年9月9日（土）、私学会館 アルカディア市ヶ谷において、「藤井まき子先生を囲む会」を開催しました。

藤井先生におかれましては、令和5年3月末日をもちましてご定年によりご退職されました。藤井先生は、薬品物理化学研究室の教授として8年間にわたり教育と研究にご尽力され、輝かしい研究業績を上げられたばかりでなく、学生や教職員へ愛情溢れるご指導をいただきました。

一方で、新型コロナウイルス感染症により、卒業研究ばかりでなく学生生活全般にわたり、甚大な影響を受け続け、ここ4年連続、卒業式後に行われる卒業生祝賀会を開催することができませんでした。また、それと並行して行ってきた恒例の物化研究室内で行うピザパーティーもなく、卒業の喜びを分かち合う場を設けることができず、大変残念でなりませんでした。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、ご指導いただいた8年間の物化同窓生と現・物化卒研生による藤井先生を囲んでのお祝いの会を開催し、同門約50名にご参加をいただきました。卒業期ごとに近況報告や写真撮影など終始和やかな雰囲気の中、大変有意義に懇親を深めることができました。会の終盤、藤井先生に感謝の気持ちを込めて記念品と花束の贈呈を行い、藤井先生からご挨拶をいただき、盛況のうちに会を閉じることができました。

ご参加いただいた方ならびに記念品代をお送りいただいた方に感謝を申し上げます。

（田口博之 記）



日本大学校友会ニュース

2023年6月5日臨時役員総会での承認を経て大谷喜一氏（理工学部薬学科卒：20期）が会長に就任されました（令和5年6月6日から令和8年定期役員総会開催日まで）。

2023年7月31日役員総会にて新体制発足のため必要最小限の改正に止め、大きな改正点は今後検討することになる運営方針が示されました。方針として①透明性②組織のスリム化③女性役員の登用が承認されました。

組織のスリム化としては、役員数の見直し（役員総数を450名から260名に減員）、常任会が廃止され執行部会に、常任委員会を支部長・部会長会に名称変更されました。

副会長の選出についてはこれまでは各学部校友会会長でしたが、改正後はブロック化された学部校友会からの代表者となり、薬学部校友会は、理・薬系学部別部会（理工学部、工学部、生産工学部）のブロックになりました。2023年8月22日工科系校友会会長会議が開催され、代表副会長を工学部校友会の城座隆夫氏が互選され、推薦しました。

委員の選出については学部別部会から2名となり、1名は学部別部会長（薬学部校友会会長澤田康裕）、1名はその他の委員（薬学部校友会副会長 菅野圭介）となりました。

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度について

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度は平成22年度通常総会で設立が承認されて、専用口座を開設し、校友会会員の方々からの募金及び薬学部校友会桜薬会会報広告掲載料を奨学金の原資としています。平成23年度から給付を開始しています。

薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度にご理解をいただきご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和4年度の日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金の決算は下記のとおりであることを報告いたします。

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金専用口座（令和5年3月31日現在）

科目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金	6,106,751			
今年度寄付金	2,632,125			個人寄付 4件 広告寄付 1件 卒業期寄付 7件
奨学金支給		600,000		奨学生3名、200,000×3
振替手数料		165		
合計	8,738,876	600,165	8,138,711	

募金は下記口座をお願いいたします。

口座：00120-5-318734

口座名：日本大学薬学部校友会奨学金

薬学部ニュース

令和5年度薬学共用試験結果

	実施日程	合格者数	合格基準
CBT	本試験 令和5年1月7日(土)、8日(日) 再試験 令和5年3月1日(水)	231	正答率60%以上
OSCE	本試験 令和4年12月4日(日) 追試験 令和5年2月18日(土)	238	細目評価70%以上 概略評価5以上

OSCEの評価者として多くの卒業生の皆様に御協力いただきました。ありがとうございました。

第108回薬剤師国家試験結果

第108回薬剤師国家試験が令和5年2月18日(土)、19日(日)に実施され、3月22日(水)に合格発表がされました。合格率は72.0%で全国平均84.9%、私大平均84.3%でした。

薬学実務実習

令和5年度の薬学実務実習は、第Ⅰ期は令和5年2月20日(月)から令和5年5月7日(日)、第Ⅱ期は令和5年5月22日(月)から8月6日(日)、第Ⅲ期は令和5年8月21日(月)から11月5日(日)、第Ⅳ期は令和5年11月20日(月)から令和6年2月11日(日)の日程で行われます。

5年次生が薬局、病院の順に続けて1期ずつ実習を行います。卒業生の皆様にお世話になる学生も大勢いるかと思いますが、御指導の程、何卒よろしく願いいたします。

学位記伝達式

令和4年度大学院薬学研究科及び薬学部の学位記伝達式が3月25日(土)に2号館2階多目的ホールにおいて行われました。190名(博士課程4名、学部生186名)が修了・卒業し、巣立っていきました。

開講式

令和5年度大学院薬学研究科及び薬学部の開講式が4月4日(火)に薬学部2号館2階多目的ホールにおいて、新入生262名(博士課程9名、学部生253名)を迎えて行われました。

薬草教室

第35回薬草教室が令和5年5月6日(土)に開催されました。講師に元独立行政法人医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センターの飯田修氏をお迎えし、「種子島の薬用植物」と題し、御講演をいただきました。また、講演終了後、薬用植物園を見学しました。

スポーツ大会

令和5年度薬学部スポーツ大会が5月27日(土)に理工学部船橋校舎を主な会場にして開催されました。天候に恵まれ澄み渡る青空の下、学生308名、教職員68名、合計376名が参加し、屋内・外で熱戦が繰り広げられました。

公開講座

第26回公開講座が令和5年6月3日(土)に開催されました。講師に本学部教授の西圭史氏をお迎えし、「感染症に罹らないために知っておくべき知識」と題し、御講演いただきました。なお、施設公開として薬用植物園を公開しました。

オープンキャンパス

令和5年7月16日(日)、7月30日(日)、8月20日(日)に開催されました。来場者は7月16日が223組(378名)、7月30日が130組(213名)、8月20日が348組(568名)の方から御参加いただきました。

教員の人事

該当なし。

令和5年度 校友会入会記念特別講演会報告

新入会員（1年生）に向けて、第18回入会記念特別講演会「薬学の世界」が下記の通り開催された。

日 時：令和5年5月18日（木） 14：40～16：00

場 所：薬学部8号館 831教室

演題・演者

1 「～広い分野で～（対外診断用医薬品製造の紹介）」

株式会社 LSI メディエンス 荒井 秀人（31期）

2 「「行政薬剤師」という選択肢 ～調剤しない薬剤師に活躍の場はあるのか～」

埼玉県保健医療部薬務課 芝 和俊（37期）

～広い視野で～（体外診断用医薬品製造の紹介）

株式会社 LSI メディエンス 診断薬事業本部 生産・R&D センター
品質管理部 部長 国内品質業務運営責任者 荒井 秀人

学生の皆さん、薬学部校友会入会おめでとうございます。

薬剤師免許は病院薬局等だけでなく、企業でも必要となります。

体外診断用医薬品の製造業では、製造管理者を置く必要があり、その資格として薬剤師免許が必須となり、その業務は製造部門、品質管理部門の各責任者の管理監督を行います。

また製造販売業では、総括製造販売責任者を置く必要があり、その資格として薬剤師免許が必須となり、その業務は国内品質業務運営責任者、安全管理責任者の管理監督を行います。

この様に企業でも活躍する場面がありますので、薬剤師に向けて頑張ってください。そしていろいろな可能性にチャレンジしてください。

「行政薬剤師」という選択肢 ～調剤しない薬剤師に活躍の場はあるのか～

埼玉県保健医療部薬務課 副課長 芝 和俊

私は、行政サービスを通じて地域で活躍する「行政薬剤師」の存在を知ったことがきっかけで公務員を志望し、埼玉県に入庁しました。

全国約32万人の薬剤師のうち行政に携わる者は約2%です。埼玉県では約180名の職員が本庁・保健所・衛生研究所等に配属され、薬事・食品衛生・環境衛生に係る監視指導や検査等の現場で職能を発揮しています。私自身も30年以上に及ぶキャリアの中で、厚生省（当時）や保健所設置市への派遣、感染症対策、麻薬取締員としての刑事捜査、教育委員会における健康教育等、様々な経験を積みました。

調剤にとらわれない仕事や法律に興味をお持ちの就活生の方は、行政薬剤師を選択肢の一つとして頂ければ幸いです。

会務報告

令和5年度校友会通常総会報告

令和5年度校友会通常総会は、令和5年6月25日（日）午後1時30分から薬学部822教室において、会員33名が参加し、名誉会長鳥山正晴学部長をお迎えして開催された。司会は齋藤弘明（46期）が務めた。内倉和雄会長の挨拶に引き続き、学部代表として鳥山学部長から、薬学部を取り巻く状況の説明があり、引き続き校友の協力をお願いしたい旨のご挨拶があった。

その後、校友会会則14条により内倉会長が議長に選出した。議事に先立ち議長から議事録署名人林宏行（30期）、野伏康仁（49期）が指名された（会則14条）。

第1号議案（令和4年度庶務報告、事業報告、決算報告ならびに監査報告）についての説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

第2号議案（令和5年度事業計画案ならびに予算案）についての説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

第3号議案（日本大学薬学部校友会会則改正案）についての説明があり、審議の結果、副会長を現行の6名から8名に増員することが承認された（令和5年6月25日施行）。

第4号議案（役員承認）についての説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

○任期満了に伴う役員改選が行われ、役員の任期は令和5年4月1日～令和8年3月31日までである。

○会長選出

幹事会の推薦に基づき澤田康裕（33期）が承認された。なお、副会長に関しては、澤田会長に一任することも承認された。

○監事選出

正会員から3名の推薦があり、審議の結果、葛岡康広（23期）、阪田泰子（31期）、森裕子（42期）が承認された。

引き続き懇親会が薬学部食堂（2号館2階）で名誉会長鳥山正晴学部長ならびに母校教職員及び校友を迎えて開催された。初めに内倉会長の挨拶、続いて澤田新会長の挨拶がありその後、名誉会長鳥山学部長のご挨拶があった。薬学部事務局長沼子博氏の音頭で乾杯し、開宴となった。懇談中、定年で退職された松本宜明先生ならびに目鳥幸一様に内倉会長から感謝状並びに記念品が贈呈された。次年度の再会を楽しみに散会した。

令和5年度幹事会報告

令和5年度幹事会は6月10日（土）午後2時から薬学部512教室において、幹事参加者30名で開催された。

開会に先立ち内倉会長から挨拶があった。

- * 日本大学本部校友会は6月5日（月）に臨時役員総会（常任員および委員）を開催して、会長に大谷喜一氏（理工学部薬学科卒：20期）を選出した（任期は令和5年6月6日から令和8年定期役員総会まで）。
- * 令和5年度は任期満了に伴う役員改選の年である。

議題

1. 日本大学薬学部校友会会則改正案について
副会長を現行の6名から8名に増員することが提案され、承認された。
会則の変更は総会の審議事項なので、総会に上程することになった。
2. 日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金給付内規改正案について
選考方法を一部改正することが提案され、承認された（令和5年6月10日一部改正）。
3. 令和5年度日本大学薬学部校友会通常総会資料について
通常総会資料について、審議の結果、原案のとおり総会に上程することとなった。
なお、今年度は任期満了に伴う役員改選の年で（令和5年4月1日から令和8年3月31日）、会長選出については校友会会則第8条により「会長は幹事会の推薦に基づき総会に提案する」とあるので、次期会長として内倉会長から澤田康裕氏（33期）が提案され、幹事会として承認された。
4. 幹事からの質問
 - 1) Facebook や Instagram の利用度はどうですか。
「情報提供は必要で、桜薬会会報を通して広く校友に告知していき、利用度を上げていきたい」
 - 2) 流動資産について、運用する方法を考えてはどうか。
「安全性が必要であるが今後検討していく」
 - 3) 支部活動の現状についてはどうですか。
「通常総会時に支部連絡会を開催して、横のつながりを高めることにしている。また、支部に支部補助金を支給して支部活動を支援している」
 - 4) 総会・幹事会の開催場所を桜門会館（市ヶ谷）にしてはどうか（多くの校友の参加を求めて）
「検討する」
 - 5) 令和6年度からカリキュラム改正が行なわれるが、薬剤師国家試験の結果を踏まえて薬学部の今後の方向性はどうか。
「今後学部がより良い方向に進んでいけるように努めていく」

令和4年度 決算報告

正味財産計算書		
令和4年4月1日～令和5年3月31日(単位:円)		
科 目	令和4年度実績	令和4年度予算
I 一般正味財産増減の部		
1 経常増減の部		
(1) 経常収益		
①受取会費		
入会金収入	2,392,500	2,804,000
前納当年該当分	5,007,000	6,750,000
学生・正会員当年分	3,720,000	4,000,000
②雑収益		
受取利息	277	300
有価証券利息		
医療系収入		
その他収入	67,000	300,000
経常収益計	11,186,777	13,854,300
(2) 経常費用		
①事業費		
印刷費	2,054,800	2,000,000
原稿料	41,650	60,000
発送費	1,962,996	2,500,000
生涯教育講座	300,000	300,000
支部等	275,640	500,000
学生会員	2,549,740	2,500,000
医療系・工科系	0	200,000
HP管理費	311,400	300,000
事業費計	7,496,226	8,360,000
②管理費		
総会費	6,500	700,000
委員会費	17,732	120,000
管理費	1,241,043	1,000,000
人件費	753,740	2,000,000
旅費交通費	253,190	400,000
通信費	143,861	200,000
本部等分担金	570,000	600,000
慶弔費	132,309	300,000
予備費	0	174,300
管理費計	3,118,375	5,494,300
経常費用計	10,614,601	13,854,300
当期経常増減額	572,176	
2 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益計	0	
(2) 経常外費用		
経常外費用計	0	
当期経常外増減額	0	
当期一般正味財産増減額	572,176	
一般正味財産期首残高	21,624,680	
一般正味財産期末残高	22,196,856	
II 指定正味財産増減の部		
当期指定正味財産増減額	0	
指定正味財産期首残高	15,688,140	
指定正味財産期末残高	15,688,140	
III 正味財産期末残高	37,884,996	

貸借対照表

令和5年3月31日現在(単位:円)	
令和4年度	
I 資産の部	
1 流動資産	
現金	14,135
普通預金	50,220,065
郵便貯金	21,849,796
野村証券預け金	0
流動資産合計	72,083,996
資産合計	72,083,996
II 負債の部	
1 流動負債	
前受前納会費	34,199,000
流動負債合計	34,199,000
負債合計	34,199,000
III 正味財産の部	
1 指定正味財産	
指定正味財産合計	15,688,140
2 一般正味財産	
正味財産合計	22,196,856
負債及び正味財産合計	72,083,996

令和5年度 予算

令和5年4月1日～令和6年3月31日(単位:円)

○ 収入の部

科 目	予 算
入 会 金	2,806,000
年 会 費	
前納会費積立	6,515,000
当年度納入	4,000,000
利 子	300
雑 収 入	300,000
合 計	13,621,300

○ 支出の部

科 目	予 算
1 事業費 合計	8,360,000
①会誌発行費	
印 刷 費	2,300,000
原 稿 料	60,000
発 送 費	2,200,000
②活動補助費	
生涯教育講座	300,000
支部・同期会	500,000
学生会員	2,500,000
医療系・工科系	200,000
③HP管理費	300,000
2 管理費 合計	5,261,300
①会 議 費	800,000
総 会 費	100,000
委 員 会 費	900,000
②事務局費	
管 理 費	2,000,000
人 件 費	300,000
旅費交通費	200,000
通 信 費	500,000
③その他	
本部等分担金	400,000
慶 弔 費	61,300
④予備費	
合 計	13,621,300

○ 本部還付金

科 目	予 算
1 本部還付(正会員)	(150,000)
年会費充当	100,000
雑収入充当(寄付金扱)	50,000
2 本部還付(準会員)	(9,390,000)
入会金充当2,806,000	
年会費充当3,130,000	
前納会費充当	3,454,000
合 計	9,540,000

日本大学薬学部校友会会則改正

第4章 役員

第7条 本会には、次の役員を置く。

会 長	1名
副 会 長	6名
常任幹事	8条4号で定める員数
幹 事	8条3号で定める員数
監 事	3名

改正点

副会長を現行の6名から8名に増員する。

他は現行通りとする。

附則 この規程は令和5年6月25日より施行する。

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金給付内規改正

（選考方法）

第7条

（現行） 日本学生支援機構が定める「在学採用の家計の推薦基準」等に基づき選考を行う。

（改正） 日本学生支援機構が定める「在学採用の家計の推薦基準」、修学状況、成績などに基づき選考を行う。

附則 この内規は令和5年6月10日より施行する。

☆薬学部校友会会則は、校友会ホームページに掲載しています

薬学部校友会役員名簿

(任期：令和5年4月1日～令和8年3月31日)

(期)

会 長	澤田康裕 (33)
名誉会長 (薬学部長)	鳥山正晴 (30)
副会長	菅野圭介 (22) 小林弘子 (28) 加藤孝一 (31) 内山武人 (33) 田口博之 (34) 大場延浩 (41) 矢作忠弘 (52)

委員会	委員長	副委員長	委 員
総務委員会	小林弘子 (28)	林 宏行 (30) 岸川幸生 (35) 中島理恵 (49)	井熊一宏 (26) 戸塚ゆかり (36) 和田 平 (46)

財務委員会	田口博之 (34)	小松裕明 (25) 目鳥幸一 (25) 中嶋順一 (36)	小村健太郎 (40) 荒川基記 (41) 宮岸寛子 (52)
-------	-----------	----------------------------------	-----------------------------------

事業委員会	加藤孝一 (31)	大竹富治 (31) 安部 恵 (39) 木村元気 (51)	浅見 覚 (35) 田中 融 (53) 武安智広 (60)
-------	-----------	----------------------------------	----------------------------------

学内委員会	大場延浩 (41)	元吉尚美 (44) 野伏康仁 (49) 鈴木直人 (52)	小山由美 (36) 徳田栄一 (50) 重松花梨 (65)
-------	-----------	----------------------------------	----------------------------------

I T 委員会	矢作忠弘 (52)	矢萩弘晃 (60) 神 健太 (61) 前田美咲 (62)	坂神 宏 (42) 花岡峻輔 (55) 渡部浩平 (61)
---------	-----------	----------------------------------	----------------------------------

事務局	内山武人 (33)	三浦基文 (44) 小菅康弘 (45) 齋藤弘明 (46)	鈴木豊史 (37) 大橋祥世 (44) 長友大希 (63)
-----	-----------	----------------------------------	----------------------------------

監 事	葛岡康広 (23) 阪田泰子 (31) 森 裕子 (42)
-----	-------------------------------

支部連絡会会長	遠藤尚登 (25；山形県) 平岡芳子 (21；茨城県) 渡邊和裕 (37；栃木県) 藤原良雄 (16；千葉県) 小松崎康文 (41；東京) 赤瀬朋秀 (34；桜神会) 山岸美恵子 (20；新潟県) 古屋育雄 (16；山梨県)
---------	--

工科系校友会連絡会	
幹 事	菅野圭介 (22) 田口博之 (34)

医療系同窓・校友連絡会	
幹 事	林 宏行 (30) 岸川幸生 (35) 大場延浩 (41) 辻 泰弘 (42)

全国薬科大学薬学部同窓会協議会	
委 員	澤田康裕 (33) 辻 泰弘 (42)

日本大学校友会	
委 員	澤田康裕 (33) 菅野圭介 (22)

卒業期幹事

第 1 期	小山 隆	第 4 0 期	榎本哲也、宗 村盛、幕内光行
第 2 期		第 4 1 期	轟 耕司、高梨正成、宮田成康
第 3 期	金光継道、中村勝義	第 4 2 期	須田篤博、猪狩富夫、堂埜 仁
第 4 期	山内 盛、大島芳郎	第 4 3 期	
第 5 期	鉦 俊夫、小倉操子、高崎美枝	第 4 4 期	山本哲也、牛山直樹、森田佳貴
第 6 期	前田敏晴、藤本康雄、松島章浩	第 4 5 期	伊藤護之、森木誉嗣昭
第 7 期	田中孝治、小山征治、久田三郎	第 4 6 期	麦島 篤、磯部 幸、佐藤史行
第 8 期	青木正忠、荒木国興、寺澤正孝	第 4 7 期	岩田佳之、安倍祐治、大平正隆
第 9 期	小松康宏、森田昌弘、渡邊和子	第 4 8 期	八卷 亨、小林真里
第 1 0 期	小林郁夫、木村由美子、栗原 功	第 4 9 期	石井範正、山本祐子
第 1 1 期	稲垣英夫、桑畑善信、東 厚子	第 5 0 期	野村沙和子、四方絢子、宮崎恵理
第 1 2 期	小清水敏昌、野澤克己、原田隆子	第 5 1 期	羽賀健悟
第 1 3 期	高橋繁治、玉川欽也、松田信行	第 5 2 期	中島博史、後藤教嘉、柳川亜紗美
第 1 4 期	武田文男、内倉和雄	第 5 3 期	岡田淳吾、金井裕子、鈴木富仁
第 1 5 期	深瀬善弘、吉野信次	第 5 4 期	梅澤昌弘、川口 亮、棗沢泰人
第 1 6 期	藤原良雄、森田光洋	第 5 5 期	市丸 嘉、今井美湖
第 1 7 期	高木友直、深瀬悦子、吉野美佐子	第 5 6 期	島田崇史、小嶋佑輔、古川将司
第 1 8 期	大河内一紀、齋藤好廣、安川 憲	第 5 7 期	影山 明、青山剛一、吉田有佳里
第 1 9 期	坪川博則、須藤孝子、吉岡晴美	第 5 8 期	赤松 弾、金子眞美、加藤美緒
第 2 0 期	濱中敏雄、内堀 悟、菊池紀子	第 5 9 期	中野悠馬、鈴木正有吾、塚原明大
第 2 1 期	杉森万千日兒、石田制利、吉田善一	第 6 0 期	姫野魁人、矢萩弘晃、芳村理江
第 2 2 期	荻部博哲、井澤郁子、菅野圭介	第 6 1 期	鈴木勇太、鈴木躍士、福田光良
第 2 3 期	野中栄夫	第 6 2 期	西留啓太朗、山崎政幸、八木沙英子
第 2 4 期	村山琮明、桑田信博	第 6 3 期	佐野拓夢、佐藤真由子、竹村悠哉
第 2 5 期	梅沢芳史、東海林正弘、森本 宏	第 6 4 期	坂本浩一、安藤和胡
第 2 6 期	小森谷友宏、梶原加恵子、金成俊英	第 6 5 期	菅野裕己、有壁一成
第 2 7 期	吉川日出雄、飯塚 進、山北信広	第 6 6 期	米倉太一郎、芳賀絵莉奈、平野竜平
第 2 8 期	高橋省三、高塩健一、鳥居徹也		
第 2 9 期	渡辺茂和、加藤奈津江、渡辺 実		
第 3 0 期	鈴木恵裕、原口善朗		
第 3 1 期	原 英行、尾形眞一、中澤 豊		
第 3 2 期	福島 栄		
第 3 3 期	熊谷 仁、関根 均、前田雄一		
第 3 4 期	坂本治彦、石川浩子、原 浩祐		
第 3 5 期	杉本勝昭、石崎智昭、坂井義則		
第 3 6 期	中嶋順一、難波昭雄、藤澤秀樹		
第 3 7 期	鈴木重由、酒井秀夫、渡邊和裕		
第 3 8 期	中山敏光		
第 3 9 期	飯嶋久志、菅野守啓、書川宏子		

常任幹事

(期)

小山 隆 (1)	金光継道 (3)	山内 盛 (4)	鏑 俊夫 (5)	前田敏晴 (6)	田中孝治 (7)
青木正忠 (8)	小松康宏 (9)	小林郁夫 (10)	稲垣英夫 (11)	小清水敏昌 (12)	高橋繁治 (13)
武田文男 (14)	深澤善弘 (15)	藤原良雄 (16)	高木友直 (17)	大河内一紀 (18)	坪川博則 (19)
濱中敏雄 (20)	杉森万千日兒 (21)	荏部博哲 (22)	菅野圭介 (22)	野中英夫 (23)	村山琮明 (24)
梅沢芳史 (25)	小松裕明 (25)	目鳥幸一 (25)	小森谷友宏 (26)	吉川日出雄 (27)	高橋省三 (28)
渡辺茂和 (29)	鈴木恵裕 (30)	原 英行 (31)	大竹富治 (31)	福島 栄 (32)	熊谷 仁 (33)
坂本治彦 (34)	杉本勝昭 (35)	中嶋順一 (36)	鈴木重由 (37)	中山敏光 (38)	飯嶋久志 (39)
榎本哲也 (40)	轟 耕司 (41)	須田篤博 (42)	山本哲也 (44)	伊藤護之 (45)	麦島 篤 (46)
岩田佳之 (47)	八卷 亨 (48)	石井範正 (49)	野村沙和子 (50)	羽賀健悟 (51)	中島博史 (52)
岡田淳吾 (53)	梅澤昌弘 (54)	市丸 嘉 (55)	島田崇史 (56)	影山 明 (57)	赤松 弾 (58)
中野悠馬 (59)	姫野魁人 (60)	神 健太 (61)	鈴木勇太 (61)	西留啓太郎 (62)	佐野拓夢 (63)
坂本浩一 (64)	菅野裕己 (65)	米倉太一郎 (66)			

学内幹事

(期)

井熊一宏 (26)	石毛久美子 (27)	小林弘子 (28)	日高慎二 (29)	林 宏行 (30)	加藤孝一 (31)
内山武人 (33)	田口博之 (34)	浅見 覚 (35)	岸川幸生 (35)	小山由美 (36)	戸塚ゆ加里 (36)
鈴木豊史 (37)	安部 恵 (39)	小村健太郎 (40)	宮坂知宏 (40)	荒川基記 (41)	大場延浩 (41)
辻 泰弘 (42)	坂神 宏 (42)	大橋祥代 (44)	三浦基文 (44)	元吉尚美 (44)	及川直毅 (45)
菅野淳史 (45)	小菅康弘 (45)	齋藤弘明 (46)	和田 平 (46)	中島理恵 (49)	野伏康仁 (49)
徳田栄一 (50)	木村元気 (51)	鈴木直人 (52)	宮岸寛子 (52)	矢作忠弘 (52)	柴崎宏介 (53)
田中 融 (53)	花岡峻輔 (55)	竹安智広 (60)	渡部浩平 (61)	長友太希 (63)	重松花梨 (65)

物故者名簿：心よりご冥福をお祈り申し上げます。（2023.8.31 現在）

正会員	9期 佐伯 友 偵 (2022.12.05)
2期 中村 喜 敬 (2023.04.20)	10期 北村 光 孝 (2023.02.05)
2期 五十嵐 (金子) 尚 美 (2022.10)	10期 五味 孟 (2022.04)
3期 野口 (岡) 登 美 (2022.07.26)	10期 佐藤 良 夫 (2023.01.01)
3期 黒川 雄 三 (2022.01.26)	12期 保坂 盛 夫 (2023.04.20)
4期 西山 護 (2022.12.11)	15期 岩瀬 義 男 (2023.05.24)
5期 國田 五 重 (2023.02)	22期 関原 三 明 (2022.12.06)
5期 杉原 正 敏 (2022.12.28)	23期 小山 敏 保 (2022.04.11)
6期 町田 (谷浦) 巖 (2023.04.19)	23期 熊井 俊 夫 (2023.05)
8期 高島 (内海) 浩 子 (2023.01.05)	

特別会員

堀岡正義 (2022.06.13)

校友会事務局に、死亡日時、葬儀日時、会場、喪主をご連絡いただければ、会より弔電を打たせていただきます。

会費納入のお願い

校友会活動は会費により運営しています。会費納入にご協力をよろしくお願いいたします。
宛名の下に会員番号が記載されています。（会員番号の横に☆印のある方は会費未納です）
未納の方は、同封の振込用紙で会費納入をお願いいたします。
会費は年額 2,000 円です。事務簡素化のため 5 年分 10,000 円または 10 年分 20,000 円を一括
納入していただければ幸甚です。

会費納入のお願い



薬学部校友会ホームページについて

IT 委員会委員長 矢作 忠弘

薬学部校友会ホームページでは、校友会の活動、総会・運営委員会の案内や求人情報などを随時更新しています。

2023年4月からの主な更新内容

- ①校友会の活動報告
Facebook および Instagram で更新（5件）
- ②同窓会などの会合案内
東桜会研修会などの案内（3件）
- ③求人情報の更新
毎週金曜日に Instagram で更新中（28件）
- ④桜薬会会報のバックナンバーの更新
No. 04（1980）～71（2019）まで掲載



会員の皆様からのご意見やご要望を反映して、より良いホームページにしていきたいと考えておりますので、何かございましたら遠慮なく校友会事務局（pha.alumni@nihon-u.ac.jp）までご連絡下さい。

校友会ホームページにおけるパスワードについて

ホームページ中の [会則（一部）]、[総会資料]、[運営委員会資料]、[求人情報] などにはパスワードが設定してあります。各ファイルを閲覧する際には、下記のパスワードを入力してください。SNS 等での拡散はご遠慮ください。

パスワード
お手元の会報で
確認してください

求人情報の掲載・募集について

本学就職指導課より提供される求人情報を毎週金曜日に更新し掲載しています。また、会員からの求人情報の掲載を無料で行っています。求人情報のページから求人申込書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、校友会事務局にお送りください（メール、郵送、FAX 可）。



HP
QR コード



Instagram
QR コード

会費納入報告

財務委員会

会費を納入いただきました方の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがありましたらお知らせください。
本部準会員(学生会員)会費納入者は人数のみのご報告とさせていただきます。(令和5年2月1日～8月31日)

会費納入者

2,000円納入者

56 鈴木隆子 57 松村洋子, 福永重弥 59 木村清 60 尼崎玄之助 61 景山洋子, 小林和子 63 榎島國利, 寺澤正孝, 芝紀代子 64 牛山妙子 65 秋元敦信 66 小林正子 67 新佛賢明 72 山下和代, 二木あつ子 74 川井龍美, 加賀谷元 76 片桐秀明 77 長瀬健市 79 大塚正征, 山口尚子 81 加藤善久, 北村奏 82 渡辺正実, 中村宏典 85 杉中淳 88 岡田景好 90 山内牧子 92 鈴木豊史 93 湯口真紀 95 今田吉宣 05 藤代大輔 07 百瀬智恵 以上 34 名

4,000円納入者

56 山口久美 58 白井正子 59 河井弘子, 牛尾俊江, 青山静子, 中本光子 66 佐々木連 82 野田範子 以上 8 名

6,000円納入者

57 田中陽子 64 鎌田邦榮 67 小林香代子 70 首藤雄次 74 小野太郎 91 田中裕子 94 佐々木博将 以上 7 名

10,000円納入者

57 千葉胤昭 59 妹尾昇 60 上甲時子 61 藤井綾子, 辻厚子, 坂本壽子 62 吉田昌信, 松山歌子 63 菅谷榮夫, 宮本頼章 64 小宮宏宣 65 栗原功, 平井清作, 牧村瑞恵, 徳山靖郎, 近藤千代子 66 藤田菅雄 67 原田隆子, 高齊紀子 69 坂田秀臣 70 森本薫, 会田陽子 71 石田清一, 成川秀隆, 成川玲子, 山内ヒロ子 72 白崎裕子 73 木村つや子, 久保道夫 74 内田順子 75 三浦勇一郎 76 大橋英雅 77 福田恵子, 藤岡満, 藤田智子 78 三浦雅道 79 柳沢英子, 三浦数典, 濱崎利彦 80 宇留田久美子, 加瀬裕子, 宍倉聖子, 田中香代子, 長山幸太郎, 角南靖子, 御園高弘 81 堀田直子, 八東京子, 玉置邦彦, 知久真巳 82 迫多賀子 83 大内文伸 84 渡辺茂和, 植原政彦, 植原みゆき, 鈴木孝子, 吉田昌利, 山中美佐子 85 奥山努 86 西村優子, 田口裕之 87 福島栄 88 石川徹 89 黒田一枝, 赤瀬朋秀, 大月浩 90 河原玲子 91 藤澤秀樹, 宇佐美裕子 92 黒須由紀子 93 津晃子 95 原田繁 96 矢野千賀子 97 山田武志 99 三浦基文 01 伊藤あすか 03 成川仁之 05 成川賢一 13 古川将司 以上 79 名

20,000円納入者

61 松澤孝昌 70 上村敏子 79 佐藤久子 83 中川幸雄 84 津嘉山祥子, 門井功 85 酒井昌子, 寺田秀男, 寺田玲子 86 尾形眞一, 堀野律子 88 諏訪勝彦, 萩原純子 96, 轟耕司 97 吉田圭吾 00 中神英和 13 星野裕俊 以上 17 名

40,000円納入者

13 村木佑子 以上 1 名

令和5年度本部正会員会費納入者 (薬学部校友会へ会費還付があった者)

57 一ノ瀬衛, 山長みどり 61 前田敏晴 63 長崎雅彦 64 小松康宏, 渡邊和子 65 小川尚武 68 高橋繁治 69 内倉和雄 70 宇野澤まり子, 草間貞 74 平井幹廣 76 鈴木孝, 本橋重康 80 梅沢芳史, 関和優子, 目鳥幸一 84 日高慎二 85 鳥山正晴, 林宏行 86 岩鶴節子 87 松田悦子 88 内山武人, 澤田康裕 90 浅見覚, 岸川幸生, 新海一郎, 西村伸大 94 安部恵, 土屋晃一 96 大場延浩, 黒田好美, 小松崎康文 00 木村恵子, 小菅康弘 01 荒井希文, 齋藤弘明 05 橋本詠次 06 松本大輔 08 大塚進 12 北野徹 14 今井徹, 下田康代
特別会員: 稲井孝行, 宇野朋子, 小野真一, 神田信, 手塚雅勝, 富澤経裕, 松尾光帆, 松本宜明, 村田佳子, 葉眞寺千恵子 以上 53 名

令和5年度本部準会員会費納入者 (薬学部校友会へ会費還付があった者)

学部	1年	274名	大学院	1年	9名
学部	2年	290名	大学院	2年	5名
学部	3年	236名	大学院	3年	3名
学部	4年	220名	大学院	4年	7名
学部	5年	226名			
学部	6年	271名			以上 1, 541 名

日本大学薬学部校友会(桜薬会)奨学金寄付者

64 渡邊和子 合計 100,000円

発行日 令和5年11月15日
編集人 日本大学薬学部校友会事業委員会
発行人 日本大学薬学部校友会 澤田康裕
印刷所 協友印刷株式会社
TEL 03-5948-7150

発行所 千葉県船橋市習志野台 7-7-1
日本大学薬学部内 (〒274-8555)
TEL/FAX 047-465-1478 (直通)
E-mail: pha.alumni@nihon-u.ac.jp
振替口座番号 00140-0-53798
振替口座名 日本大学薬学部校友会